

造影 CT 検査を受けられる方への説明

1. 造影 CT 検査とは

ヨードを含む薬（造影剤）を血管内に注入しながら行う X 線検査です。

造影剤を使用することにより、病変の存在や形状などがより詳しく描出され、診断に役立つことがあります。

2. 造影剤の副作用

検査に際しては、その時点での症状や以前にかかった病気、家族の方がかかった病気などに注意しながら安全に検査が行われるように努めておりますが、検査中あるいは検査後しばらくしてから下記の様な副作用症状が起きることがあります。万が一副作用が起きた場合は必要に応じて処置等を行います。

軽い副作用（頻度は約 3～5%以下）：

吐き気、嘔吐、頭痛、めまい

じん麻疹、発疹、かゆみ、手足のむくみ、発熱、せき、など

重い副作用（頻度は約 2500 人に 1 人）：

まれにショックやアナフィラシキ様反応（例えば呼吸困難や血圧低下など）が生じることがあります。16 万人に 1 人の割合で死亡例もあります。

以下の既往がある方は造影剤の副作用が生じる頻度が比較的高く、症状が強くなる場合もあり、造影検査を行わないことがありますので、必ず問診票の記入をお願いいたします。

- a. 今までに造影剤やヨード過敏症による症状を起こしたことがある方
- b. 気管支喘息などのアレルギー性疾患のある方
- c. ほかの薬剤過敏症のじん麻疹などアレルギー歴のある方
- d. 腎臓の病気や機能が悪いといわれた方(eGFR が 45ml/min 未満の方は造影出来ません)
- e. ビグアナイド系の血糖降下薬(メルビン、グリコラン、メデット、ジベトス、ジベトン S など)内服中の方(造影検査前後 48 時間の休薬が必要です。)

3. 副作用の予知について

初めて造影検査を受けられる方、または今まで造影剤やヨード過敏症による症状を起こしたことがない方が、今回の造影検査で副作用を起こすかどうかをあらかじめ調べる方法は現在のところありません。

*以前は少量の造影剤を使用する皮内テストや静脈内テストが行われていましたが、有効であるとの根拠がなく現在は行われておりません。

注. 以上の説明をご理解いただいた上で、別紙の同意書にご署名をお願いします。
同意書に記入された後でも、いつ造影検査を拒否されてもかまいません。
なお、ご不明な点は担当医師または下記にお問い合わせください。

独立行政法人 国立病院機構 四国子どもととなの医療センター

TEL:0877-62-1000(代表)

(平日午前 8 時 30 分～午後 5 時)